

(1) 第23316号

# 自身で備える第二步に

## 熊野市へ災害物資300人分贈呈

一般社団法人日本非常食推進機構(JEFO、四日市市)は、非常食や水などを入れた災害物資「白い小箱」300箱を熊野市身体障害者(児)福祉連合会(森岡寛佳会長)と熊野市母子寡婦福祉会(福岡和子会長)に贈るにあたり19日、熊野市役所で贈呈式を開いた。熊野市とJEFOが昨年12月26日に結んだ「災害救助に必要な物資の調達と普及啓発に関する協

定」に基づくもの。JEFOは昨年8月に三重県と「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」を結んでおり、災害用物資の備蓄を推進、危機意識の向上・持続性を図るための運動を展開している。本年度は行政の行うイベントでの配布や小学校で非常食セットを利用した防災教育などを計画している。物資を話めた通称「白い小箱」には、1人1日

分の非常食(アルファ米)と飲料水のほか、アルミ防寒シートなどが備わっている。向団体へは、市を通して配布。5月に開かれる総会や季節のイベント時などに配られることになっている。

贈呈式には、市防災対策推進課の尾中弘明課長ら市の関係者とJEFOの古谷賢治代表理事が出席。古谷代表理事は「住

民の方には非常食のセットを見ていただいて、自身で備えていく第二步にしていたら非常にありがたい」とあいさつ。尾中課長は「このような貴重なものを贈呈していただき感謝している。市としても防災講話等を通して最低でも3日以上の備蓄の重要性を訴えていきたいと考えている」と謝辞を述べた。



古谷代表理事(中央)から尾中課長(右)へ物資が託された